

カカラ谷

キャンペーン・ハンドアウト

1000年の昔にそれは
地の底深く封印された……

それは、100年前に解き放たれた。

その封印によって大帝国ネラスは繁栄と拡大の時代に入った。開放されるはるか昔から、暗黒は輝ける帝国を侵していた。帝国の絶頂期に建設されたカカラ村は今、荒野にある弱いともしびれとして残っている。そこの住人たちは彼らが住む地に誰が何を埋葬したのか、ずいぶん昔に忘れていた。

今、彼らは恐怖が解き放たれたことだけを知っている。何人かの長老たちはその出現を見たが、彼らの頭にある知識はその形や本質のかけらも含んでいなかった。彼らはまだそれを夢に見て、夜にうなされるが、彼らはそれを名づけることすらあたわらない。

大地は悪しきものによる傷によって汚された。カカラ谷は古代の邪悪が幽閉から脱出するために引き裂かれ傷痕をさらしている。焼け落ちた森にいた生物たちは谷から腐敗が広がる前に逃げ出した。腐敗は今ふたたび谷から吐き出され——その穢れは生命を歪め、自然の営みをねじれさせ——生物の外見は寄せくる汚染を明らかにしている。

それは恐怖の再来を暗示しているのかもしれない……

カカラ村

君のキャラクターはやらいに囲まれた小さな十字路の村、カカラ村かその近くで育った。暗闇に包まれた荒野で消え入りそうなどもしび、カカラはその周辺から人々を保護するための防壁を持ち、気休め程度の安全を訪れる者に与えている。村の主要な要素と、それにつらなる人々は以下の通り。

寄り合い所:酒場であり村人が会議するための場所。

◆“嵐を見るもの”ビレル最長老(女性のエルフ)、この村一番の年長者で、村議会を主導している。

寺院:中心にバハムートの祭壇があるが、ペイロア、モラディン、そしてコードの祭壇と司祭もいる。

◆“銀鱗”カーラヴァス(男性のドラゴンボーン)、年老いたバハムートの司祭。

◆“太陽に祝福されし”カブラ(女性の人間)、若く知的なペイロアの司祭。

◆オリン(男性の人間)、村の鍛冶屋にしてモラディンの司祭。

◆グレッダ(女性のハーフエルフ)、退役兵士の商人、そしてコードの司祭。

月剣商会:シルヴァリームーンに拠点を置く商人の集団。

◆タドリック・ボアシェルム(男性のドワーフ)、この土地に住む月剣商会の代理人で、珍しい道具を手広く商う。

プリンディンフォード廻船:もうひとつの商会で、湖の町を拠点にする。グレッダ(コードの司祭(訳註:明白な間違いなので修正))は地元の代理人である。

周辺地域

村を囲むやらいの周りには農場があり、その向こうには焼け焦げた木が並ぶ焼け落ちた森がある。ひと世代昔、森には青々とした自然があふれエルフとシフターが暮らし、ケンダリアネのエラドリンは妖精郷とこの世界を自由に行き来していた。現在の森は黒く焼けた木の幹と焦げた大地が広がる荒涼とした荒野で、しばしば不気味な緑の炎が地面から吹き上がっては踊っている。

カカラの北には荒野となった中原最後の文明化された城塞都市、シルヴァリームーンの街がある。街道はこの街に続き、月剣商会の旅慣れた商人が行き来しているが、それは決して安全な道のりではない。

街道の南側には、廃墟となった大都市の中心に塔見の町がある。遺跡で最も目立つ特徴は、いまだにそびえる窓も無く入り口も知られていない古代の塔である。

キャンペーン・ルール

いくつかの変更と削除を除き、ダンジョン職人のキャンペーンではすべてのD&Dコア・ルールを使用する。

キャラクターの種族

キャンペーン開始時、君はティーリング以外の『プレイヤーズ・ハンドブック』記載の種族か、『モンスター・マニュアル』にルールが載っているシフターを使用することができる。

カカラの住人はほとんどが人間の農民である。彼らのほとんどは村のやらいから外側の農場に住んでいる。

ドラゴンボーンははるか古の帝国ネラスの継承者で、彼らは歴史からくる誇りにこだわっている。彼らは確固とした共同体を持たないが、しばしばカカラと近くの集落の間を行き来するドワーフの隊商に護衛を提供している。数人のドラゴンボーンは村に定住しているが、ほとんどはシルヴァリームで暮らしている。

エルフは現在焼け落ちた森と呼ばれる場所で暮らしていたが、そこが滅びカカラの近くにあるより小さくささやかな森へと移住したため、彼らの野営地や放浪する一団は近くに点在する農場と同じくらいに村の一部となっている。エルフはカカラの一部というほど多く住みハーフエルフもかなりの数が村の住人である。

妖精郷の住人エラドリンは森の中心、世界のあわいにあるケンダリアネの街に住んでいた。焼け落ちた森の破壊によって、エラドリンの街は同じく破壊され、難民は妖精郷とカカラへと散り散りになった。

ドワーフの商人と職人は数人が村に定住し、他にも時々隊商が訪れる。ドワーフの隊商は課からと近くの街町を巡回している。

ハーリングの氏族はエルフのように父祖の地を侵す危機を感じ、白角山脈のふもとからカラスの行水河をたどり、カカラの近くに移住した。彼らは小さなはしけを沢山つないだものの上で暮らし、危険があまりに迫るなら錨をあげて出帆する準備ができています。

シフターは現在カカラがある平原の放浪民で、村にはシフターと拡大する人間の農場がいさかいを起こしていたという歴史がある。現在、それらの争いはほとんど忘れられ、シフターは村に住む人間の農民や近くの森に住むエルフと共存している。

魔法のアイテム

君がこのキャンペーンで魔法のアイテムを売買することは原則としてできない。君はエンチャント・マジック・アイテムとディセンチャント・マジック・アイテムの儀式を使用した欲しいアイテムの作成や不要なアイテムの変換は行なってもよい。

キャラクターのコネクション

君がキャラクターの背景設定を考えると、他のプレイヤー・キャラクターとの関係、そして他ひとりのキャラクターに対する強い絆を持たせてほしい。

他のプレイヤー・キャラクターとの他に、君はNPCとの関係を望むかもしれない。前のページにかかっているキャラクターに加え、君はこれらふたりと彼らの物語との関係を考えよう。

- ◆ジャンダー、狂った老翁、カブラの前任として寺院に勤めていたペイロアの司祭。彼は信心深く真面目——本当に、村人のために真面目すぎるほどだった。彼は農民たちに対して暗黒の侵略への対策を怠っていると演説をぶち、時には隣人に対する慈悲と親切が足りないと彼らを公然と叱りつけたが効果は出なかった。結局村人たちは彼の代わりにカブラを選び、彼は新しい司祭(彼が考えるに人の心にある悪に対して非常に弱腰である)と同様にバハムートに対しても不満をつのらせている。彼は村を囲むやらいの中にある小屋に住んでいてめったに外出をしない。
- ◆数年前、危険をかえりみずカカラ谷の最深部へ向かった騎士。この騎士の家族はひとつの家宝、黄金に黄玉の眼をつけたバハムートの聖印を大切にしている。君はこの騎士の家族——子息あるいは他の親類かもしれない。